

平成30年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概 要
魅力ある経営体部門 (経営強化の部)	カブシキガイシャ インゾカ 株式会社 印東 (長崎市)	独自ルートによる県産魚の販路拡大や、地元原料にこだわった加工商品の開発等により経営を安定させており、魅力ある商品づくりは対外的にも高い評価を得て数々の受賞実績を有する。 事業拡大を目指した新規事業所への移転、雇用の創出、新たな取引先の開拓とともに伝統食「からすみ」の継承にも貢献。
魅力ある経営体部門 (技術・担い手の部)	カブシキガイシャ トクマル 株式会社 徳丸 (新上五島町)	県水試等と共同で効率的な成長と身質の向上、低コスト化を実現した飼料の開発や、省力型給餌船の開発等による経費削減を実施するとともに、養殖規模の拡大、国内外への売り込みにより売上の向上と経営安定化を実現。 先進的な取組は他社の模範となるものであり、高度な養殖技術は県内だけでなく県外へも波及効果が拡大。
魅力ある漁村地域部門	サキヤマギョギョウシュウラク 崎山漁業集落 (五島市)	磯焼けの原因分析、その結果に基づく囲い網の設置や食害生物の除去、ヒジキ移植、母藻の投入等を継続的・段階的に実施し、ヒジキ繁茂につなげるなど藻場の回復を実現。 地元中学生の収穫体験や他地域からの視察受入・技術提供も実施し、創意工夫による磯焼け対策の成功事例として寄与。

2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

部門名	受賞者名	概 要
魅力ある経営体部門 (経営強化の部)	ソウジマ ヒロユキ 惣島 博幸 (対馬市)	アナゴの水揚げ減少や餌イカの高騰等による冬場の赤字操業の対策として、ブリ延縄漁法を導入するとともに、さば一本釣も組み合わせた複合経営へ転換し、水揚げ・所得の向上を実現。 取組が地域へ広がることで、あなごかご漁業者全体の経営安定とあなご資源の保護が期待される。
魅力ある経営体部門 (技術・担い手の部)	アイカワ マサシ 相川 正司 (長崎市)	長年にわたる琴海町形上湾内の底質改善を目的とした海底耕うんの取組の実施、近年ではウニ駆除等の藻場の保全活動等、地域の漁場保全の取組を積極的に推進・主導。 40年にわたる取組の継続により、海藻の繁茂や資源の回復が見られており、地域の漁場保全や担い手の育成、大村湾全体の水揚げ増加に貢献。
魅力ある漁村地域部門	フルサトギョク 古里漁組 (対馬市)	SNS等を活用した情報発信による漁業と田舎暮らしの効果的なPR、島外からの就業希望者の積極的な呼び込みや体験研修の実施、漁船や住居探しに協力し、新規着業につなげ、独立後も技術向上や経営安定化を支援。 島外からの若者が漁業担い手として定着・定住することで漁村の活性化に貢献し、他地区の模範となっている。

3. 特別賞(ながさき水産業大賞運営委員会会長賞)

部門名	受賞者名	概 要
魅力ある経営体部門 (経営強化の部)	オオイ 豊彦 大石 羊市 (五島市)	新たに経費のかからない漁法を導入し、複合的な漁業により魚価変動や漁模様に対応した操業の実施、船団での効率的な魚群探索等を行うことにより経費削減・所得向上を実現。 船団会長を務めるなど漁業者を統率し、自らの取組の積極的な普及により経営計画策定者が拡大し、地域漁業者の経営の安定に貢献。
魅力ある経営体部門 (技術・担い手の部)	タニガワスイサン カブシキガイシャ 谷川水産 株式会社 (松浦市)	養殖サバのブランド「長崎ハーブ鯖」の共同開発・生産・販売、養殖マダイの品質等、養殖技術の品質向上や市場拡大の取組により経営を安定化。 高い養殖技術と経営手腕が評価され、「養殖産地協議会」や地域振興組織のリーダーとして、統一品質のマダイ生産、イワガキの生産拡大等、地域振興に貢献。
魅力ある漁村地域部門	シマバラギョギョウキョウドウクミアイ 島原漁業協同組合 (島原市)	組合員が営むワカメ・コンブ養殖で廃棄されていた未利用部分を餌料として有効活用したアワビの陸上養殖に取り組み、地域の特徴を活かした「ジオアワビ」の生産・販売を実施、養殖業者の経営安定に貢献。 最新技術を取り入れた施設整備や増産と販路拡大等に積極的に取り組み、雇用創出に繋げ、地域振興に貢献。